

第57回 関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会 茨城大会参加報告

第57回 関東甲信越地区 公立学校教頭会研究大会 茨城大会が、茨城県水戸市において11月10日、11日の2日間にわたり、関東甲信越地区から約1,700名の副校長・教頭を集め開催された。

今茨城大会では、研究主題「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」(第10期)、キーワード「生き抜く力」「絆づくり」の3期目として、これまでの研究の成果と実情を踏まえ、加速する社会の変化の中で、児童生徒が他者を尊重し合い、将来に向かって自ら考え行動する力を育むため、サブテーマを「児童生徒一人一人が輝き 未来に羽ばたく力を育てる教育」と設定し、子どもたち一人一人の「生き抜く力」「絆づくり」の育成を目指して研究主題に迫った。

1日目は茨城県民文化センターにおいて全体会が行われた。茨城大会の芳尾研究部長から、「第10期の3年次としてこれまでの研究を総括するとともに、第11期に向けて新たな課題を浮かび上がらせる大会としてとても重要な大会になるので、これらの点を踏まえ、熱心な討議を行い、学校や地域の現場に役立つ実践的な研究にしてほしい。」との基調提案があった。

全体会に続いて行われた記念講演では、ドキュメンタリー映画「みんなの学校」が上映されたあと、その映画の舞台になった、大阪市立南住吉大空小学校の元校長 木村泰子先生 による講演が「『みんなが作る みんなの学校』～すべての子どもの学習権を保障する学校をつくるために～」という演題で行われた。

「パブリックの学校とは何?」「パブリックの学校とは誰のもの?」という木村先生の問いかけからはじまった講演は、大空小学校での経験を織り交ぜながら、「すべての子どもが安心して学ぶ事が出来る学校」「すべての子どもの学習権を保障する学校」「子どもも教職員も保護者も地域も、みんなで作る学校」という教育理念のもと、子どもと向き合い、寄り添った実践を通して、子どもとともに教職員も成長をしていく、上からの教育改革とは一線を画す、現場からの教育改革が熱く語られた。

2日目は市内4会場、14分科会に分かれ、提言・グループ別研究討議が行われた。それぞれの分科会では、各都県の提言者から日々の実践をもとにした提案がなされ、それに基づいたグループ討議では、お互いの意見やそれぞれの学校での実践を交流しながら、研究を深めることができた。特にグループ討議では、参加者が10人前後の小グループに分かれ、それぞれの分科会ごとに設定された研究課題と話し合いの柱として示された視点に対し、主体的に関わりながら、積極的に意見交換、実践紹介、情報交流などを行うことができ、全体会で研究部長から示された基調に迫ることができたと考えている。

最後に、本大会に参加する機会をいただき、貴重な経験をさせてくださった関係各位に深く感謝申し上げるとともに、研修で得られた知見を今後の職務に生かすことができるよう努力を重ねることをお誓いし、茨城大会参加報告とする。

(県教頭会副会長 久保田英樹)